

JP. U. 1a1d - open

SHO, 60 - 158984

2. Utility Model Claim

A storage unit for a saddle ridden type vehicle, having an storage body provided on a rear part of a front fender or a front part of a rear fender, with a cover body that can be opened and closed being attached to an opening part of this storage body.

公開実用 昭和60—158984

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭60-158984

⑬ Int. Cl.⁴

B 62 J 9/00
15/00

識別記号

庁内整理番号

6642-3D
6642-3D

⑭ 公開 昭和60年(1985)10月22日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 鞍乗型車両の物入装置

⑯ 実 願 昭59-48187

⑰ 出 願 昭59(1984)4月2日

⑱ 考 案 者 森 田 正 孝 浜松市富塚町2149-17

⑲ 出 願 人 鈴木自動車工業株式会 静岡県浜名郡可美村高塚300番地
社

⑳ 代 理 人 弁理士 奥 山 尚 男 外2名

明 細 書

1. 考案の名称

鞍乗型車両の物入装置

2. 実用新案登録請求の範囲

フロントフェンダの後方部またはリヤフェンダの前方部に物入れ本体を設けると共に、この物入れ本体の開口部に開放・閉塞可能な蓋体を取付けたことを特徴とする鞍乗型車両の物入装置。

3. 考案の詳細な説明

a. 産業上の利用分野

本考案は、鞍乗型車両の物入装置に関する。

b. 従来技術

従来の鞍乗型四輪車 1 は、第 1 図に示すように、フロントフェンダ 2 およびリヤフェンダ 3 のフェンダ部に物入装置を設けたものが

なく、小物、書類などの携帯品を所持して運転する場合、不便であつた。

c. 考案の目的

本考案は、上記事情に鑑みてなされたもので、フェンダ部の有するスペースを有効に利用した鞍乗型車両の物入装置を提供することを目的とする。

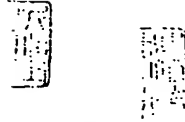
d. 考案の構成

本考案は、フロントフェンダの後方部またはリヤフェンダの前方部に物入れ本体を設けると共に、この物入れ本体の開口部に開放・閉塞可能な蓋体を取付けたことを特徴とする鞍乗型車両の物入装置である。

e. 実施例

第2図および第3図は、本考案の第1実施例に係る鞍乗型車両の物入装置を示すものである。

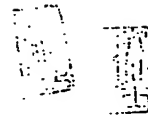
鞍乗型車両1の物入装置4は、フロントフェンダ2の後方部2aに取付けてある。上記物



入装置 4 は、物入れ本体 5 と蓋体 6 とによつて構成され、物入れ本体 5 はフエンダ 2 と別体に成形するとともに、上部に開口部 7 を有する縦型のボックス状に形成してある。そしてこの物入れ本体 5 の取付面 5a およびフエンダ 2 には、ボルト挿通孔 8 が対応する位置に設けてあり、この挿通孔 8 を通したボルト 9 およびナット 10 により物入本体 5 をフエンダ 2 に取付けてある。また物入れ本体 5 の前面 5b には、蓋体 6 を掛止めるための凸起 11 が設けてある。

上記蓋体 6 は、物入れ本体 5 の開口部 7 におけるフエンダ 2 側にヒンジ 12 によつて結合し、開口部 7 に対して開閉自在に構成してある。また蓋体 6 のヒンジ結合部の反対側端部には、掛止部 13 が吊設してあり、この掛止部 13 の凹部 14 を上記物入本体 5 の凸起 11 に嵌合させることによつて蓋体 6 を物入れ本体 5 に取付けるように構成してある。

さらに、上記物入装置 4 には、この装置内



への雨水，ホコリ等の侵入を防ぐため、ゴム等の弾性体からなるシール材15が上記物入れ本体5と蓋体6の開口部7およびボルト挿通孔8の周囲に配設してある。

第4図および第5図は、本考案の第2実施例に係る鞍乗型車両の物入装置を示すものである。

鞍乗型車両1の物入装置4は、リヤフェンダ3の前方部3aに取付けてあり、第1実施例の縦型に対して横型に配置してある。その他の構成は第1実施例と同様である。

なお、上記第1実施例および第2実施例に係る物入装置4では、フェンダ2，3への取付手段としてボルト9およびナット10を用いたが、第6図に示す如く、物入れ本体5の取付面5aに突設した、先端に膨出部16を有する嵌合突起17をフェンダ2，3の取付孔18にクッション19を介して嵌入することにより、上記物入装置4をフェンダ2，3に取付けてもよい。この取付手段によると、物入装置4の



取付けおよび取外しが容易になり、また物入装置 4 を持運び可能なバックとして利用することができる。

第 7 図および第 8 図は、本考案の第 3 実施例に係る鞍乗型車両の物入装置を示すものである。

鞍乗型車両 1 の物入装置 4 は、フロントフェンダ 2 の後方部 2a に設けてある。上記物入装置 4 を構成する物入れ本体 5 は、フェンダ 2 を一体成形して、上部に開口部 7 を有する縦型のボックス状に形成してある。その他の構成は第 1 実施例と同様である。

本実施例によると、部品点数の低減を図ることができる。

第 9 図および第 10 図は、本考案の第 4 実施例に係る鞍乗型車両の物入装置を示すものである。

鞍乗型車両 1 の物入装置 4 は、リヤフェンダ 3 の前方部 3a に設けてある。上記物入装置 4 は、物入れ本体 5 と蓋体 6 とによつて構成

され、物入れ本体 5 はフエンダ 3 を一体成形して、上部に開口部 7 を有するボックス状の凹部に形成すると共に、上記開口部 7 とフエンダ 3 の上面との間に段部 20 が設けてある。この段部 20 には蓋体 6 の取付孔 21 を設け、さらに該取付孔 21 にはクッション 22 が挿着してある。

上記蓋体 6 は、その上面 6a に取手 23 を突設すると共に、その下面 6b に、先端に膨出部 24 を有する嵌合突起 25 を突設し、この嵌合突起 25 を上記クッション 22 を介して取付孔 21 に嵌入させることにより、フエンダ 3 に対して取付けおよび取外し可能となるように構成してある。また蓋体 6 は、フエンダ 3 の段部 20 に嵌合したとき、フエンダ 3 の上面および蓋体 6 の上面 6a が面一になるように形成されている。

なお、上記物入装置 4 にも、装置内への雨水、ホコリ等の侵入を防ぐため、上記実施例と同様シール材 15 が配設してある。



本実施例によると、物入装置 4 という突起物がフェンダ 3 に現われないので、良好な外観を得ることができる。

f. 考案の効果

本考案に係る鞍乗型車両の物入装置によれば、フェンダ部の有するスペースの有効利用を図り、小物・書類などの携帯品を所持しての運転ができるので、便利になる。

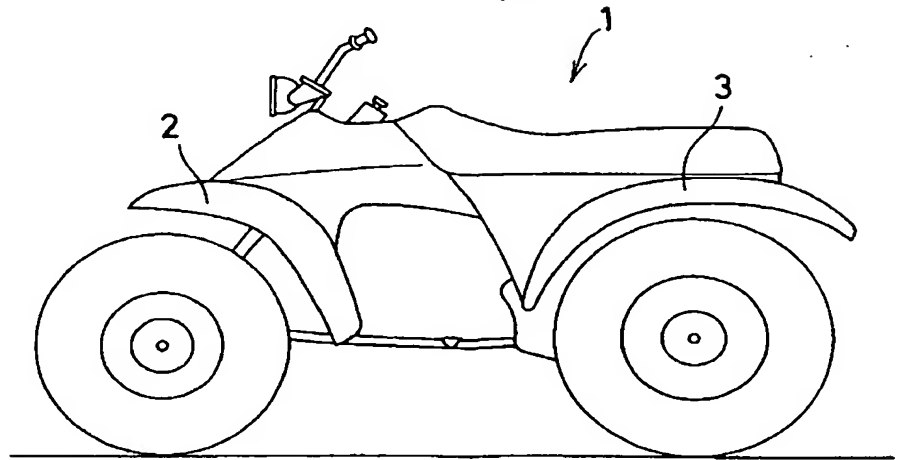
4. 図面の簡単な説明

第 1 図は従来 of 鞍乗型車両を示す側面図、第 2 図、第 4 図、第 7 図および第 9 図はそれぞれ本考案の第 1 実施例ないし第 4 実施例に係る鞍乗型車両の物入装置を拡大して示す斜視図、第 3 図、第 5 図、第 8 図および第 10 図はそれぞれ本考案の第 1 実施例ないし第 4 実施例に係る鞍乗型車両の物入装置を拡大して示す縦断面図、第 6 図は本考案の第 1 実施例および第 2 実施例に係る物入装置の他の取付手段を一部を拡大して示す縦断面図である。

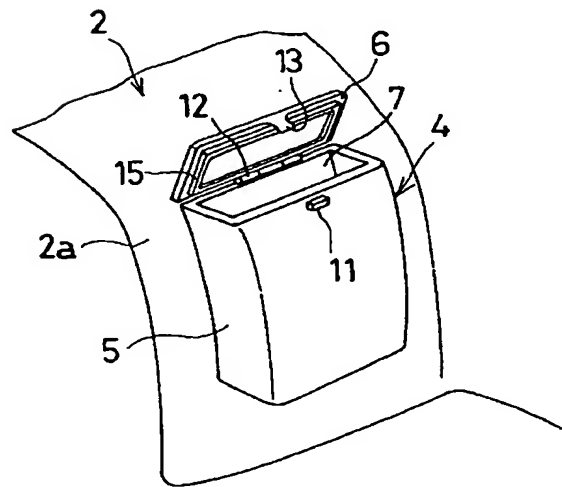


- 2 …… フロントフエнда、 3 …… リヤフエнда、
- 4 …… 鞍乗型車両の物入装置、
- 5 …… 物入れ本体、 6 …… 蓋体、
- 7 …… 開口部。

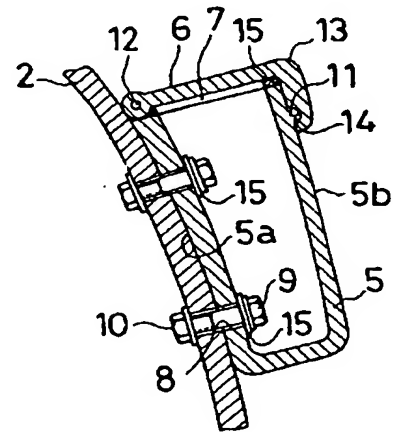
第 1 図



第 2 図



第 3 図



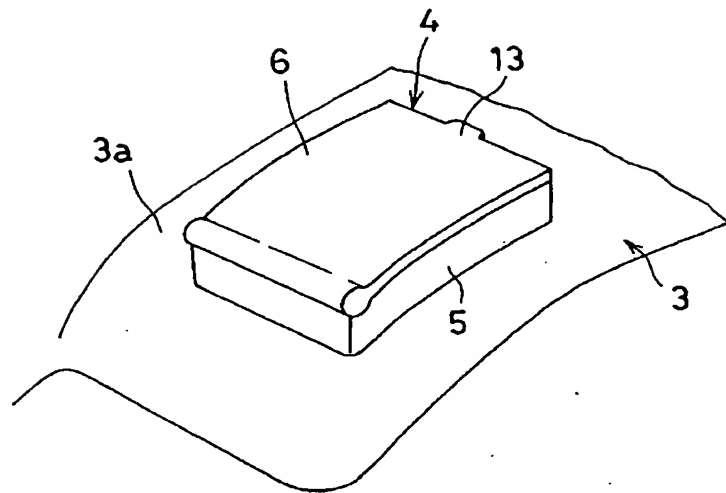
1020

実開 60

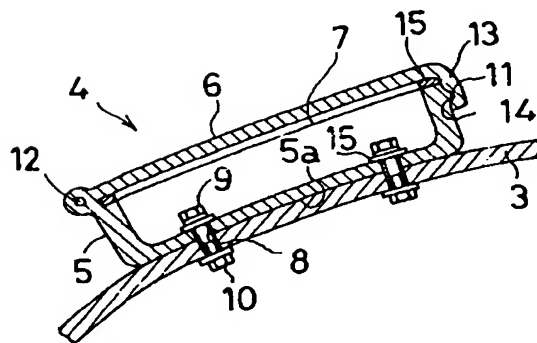
代理人
奥
山
尚
男



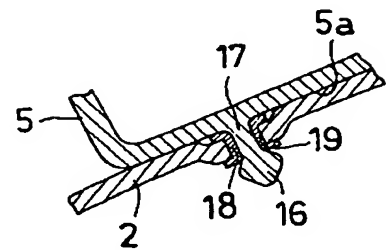
第 4 図



第 5 図

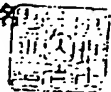


第 6 図



代理人 奥山 尚 男

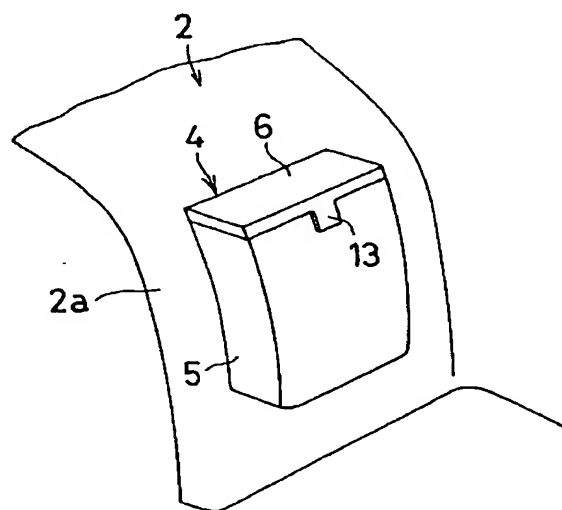
外 二 第



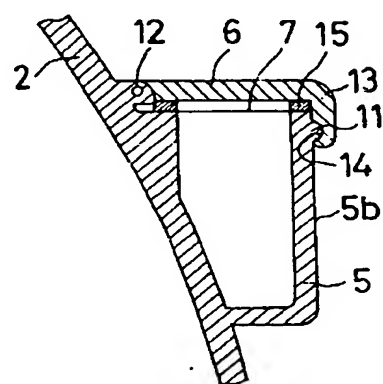
1021

実開 60-15898 4

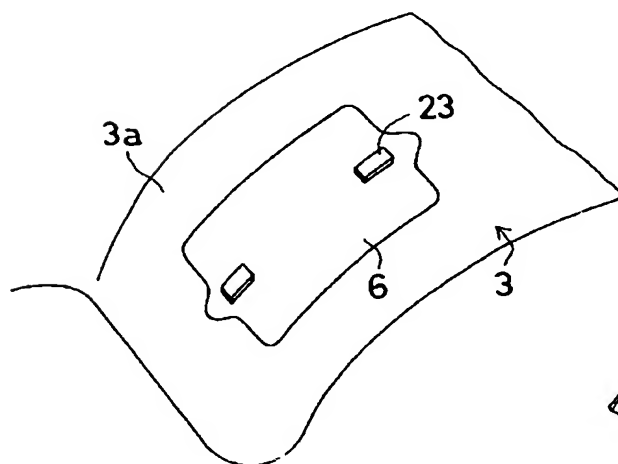
第 7 図



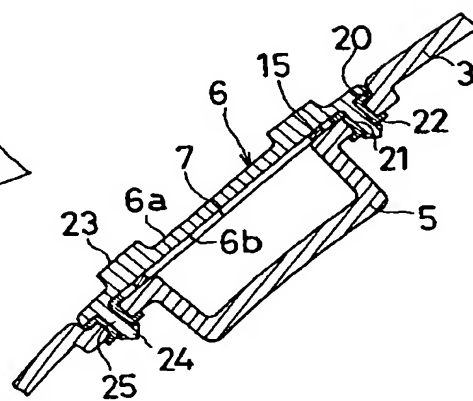
第 8 図



第 9 図



第10図



295 JPC.

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公告

⑫ 実用新案公報(Y2)

平1-39671

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 平成1年(1989)11月28日

B 62 J 9/00

G-6862-3D

(全3頁)

⑮ 考案の名称 インナボックス装置

⑯ 実 願 昭59-162277

⑰ 公 開 昭61-78085

⑱ 出 願 昭59(1984)10月29日

⑲ 昭61(1986)5月24日

⑳ 考 案 者	神 田 忠 生	三重県四日市市中町6-3
㉑ 考 案 者	片 岡 照 夫	三重県亀山市木下町463
㉒ 考 案 者	中 島 豊 蔵	三重県鈴鹿市弓削町582
㉓ 考 案 者	倉 田 靖 彦	三重県安芸郡河芸町一色261
㉔ 出 願 人	本田技研工業株式会社	東京都港区南青山2丁目1番1号
㉕ 代 理 人	弁理士 北村 欣一	外2名
審 査 官	山 口 允 彦	

1

2

⑳ 実用新案登録請求の範囲

車体のインナボックスカバーにインナボックスを凹入して形成し、該インナボックスを開閉する蓋部材を設けるものにおいて、該インナボックスの周囲側の開口縁部に該インナボックスの外側の該インナボックスカバー内の空間に臨む透孔を形成し、該開口縁部を覆う該蓋部材の側の縁部裏面に、該透孔を通して該インナボックスカバー内に挿入されるヒンジアームを取付け、該ヒンジアームを該インナボックスカバーの該開口縁部の外側の内面部分に向けて略U字状に屈曲させてその先端にヒンジピンを横設し、該内面部分に該ピンを導くピン溝を有するヒンジ受座部材を取付けたことを特徴とするインナボックス装置。

考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、主として自動二輪車に適用される物入れ用のインナボックス装置に関する。

(従来の技術)

従来、この種の装置として、車体のインナボックスカバーにインナボックスを凹入して形成し、該インナボックスを開閉する蓋部材を設けるものは知られるが、この場合該蓋部材はその側縁に延出したヒンジアームを介してインナボックスカバーに枢着されるを一般としたもので、ヒンジアームが外部に露出して体裁を損う不都合があつ

た。

(考案が解決しようとする課題)

本考案はかかる不都合のない装置、即ちヒンジアームが内部に収められて体裁を良好にする装置を得ることをその目的とする。

(課題を解決するための手段)

上記目的を達成すべく、本考案では、車体のインナボックスカバーにインナボックスを凹入して形成し、該インナボックスを開閉する蓋部材を設けるものにおいて、該インナボックスの周囲側の開口縁部に該インナボックスの外側の該インナボックスカバー内の空間に臨む透孔を形成し、該開口縁部を覆う該蓋部材の側の縁部裏面に、該透孔を通して該インナボックスカバー内に挿入されるヒンジアームを取付け、該ヒンジアームを該インナボックスカバーの該開口縁部の外側の内面部分に向けて略U字状に屈曲させてその先端にヒンジピンを横設し、該内面部分に該ピンを導くピン溝を有するヒンジ受座部材を取付けた。

(作用)

ヒンジアームは、蓋部材の側の縁部裏面から該縁部で覆われるインナボックスの開口縁部に形成した透孔を介してインナボックスカバー内に挿入されるため、外部に露出しない。

又、蓋部材の取付けに際しては、ヒンジアームを透孔に挿入してその先端のヒンジピンをピン溝

3

内に導かせれば良く、蓋部材の着脱が容易になる。

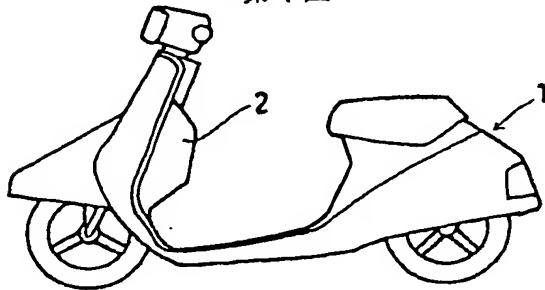
(実施例)

第1図及び第2図を参照して、1は自動2輪車の車体、2は車体の前部に設けるレッグシールドに一体に形成したインナボックスカバーを示し、該カバー2に物入れ用のインナボックス3を凹入して形成し、該ボックス3に下側を支点にして開閉される蓋部材4を施した。

該蓋部材4は、第3図に明示する如く、その下縁部裏面に左右1対のヒンジアーム5、5を備えるも、該下縁部で覆われるインナボックス3の下側の開口縁部3aに左右1対の透孔7、7を形成し、該各ヒンジアーム5を第5図示の如く該各透孔7を通してインナボックス3の外側のインナボックスカバー2内の空間に挿入自在とし、更に該各ヒンジアーム5をその先端が前記開口縁部3aの外側即ち下側のインナボックスカバー2の内面部分に向うように略U字状に屈曲させてその先端にヒンジピン6を横設し、該内面部分に該ピン6を導く第4図示の如き左右1対のピン溝8、8を有するヒンジ受座部材9を左右のヒンジアーム5、5に対応させて左右1対に取付けた。

かくて、蓋部材4はヒンジアーム5において透孔7と、ヒンジピン6においてピン溝8内とを導

第1図



4

かれて、該ピン6においてヒンジ受座部材9に開閉自在に枢支される。

尚、各ピン溝8はその終端にヒンジピン6と係合する窪み10が形成され、又蓋部材4は左右各側のサイドアーム11においてインナボックス3側の透溝12内に係合してその開き位置を規制されるようにした。

(考案の効果)

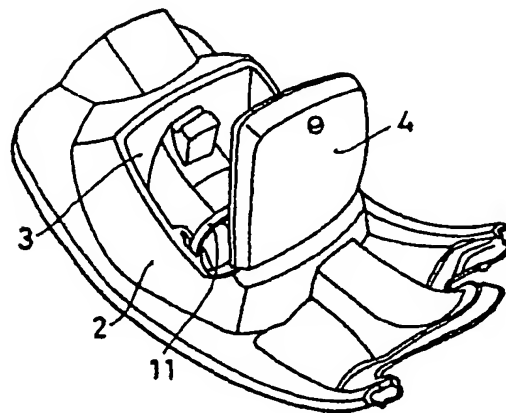
以上の説明から明らかなように、本考案によれば、ヒンジアームが外部に露出せず体裁が良好となり、而もヒンジピンはヒンジ受座部材に形成したピン溝に導かれて該受座部材に挿入されるもので、蓋部材の着脱が容易になり、且つその構成は簡単で廉価に得られる等の効果を有する。

15 図面の簡単な説明

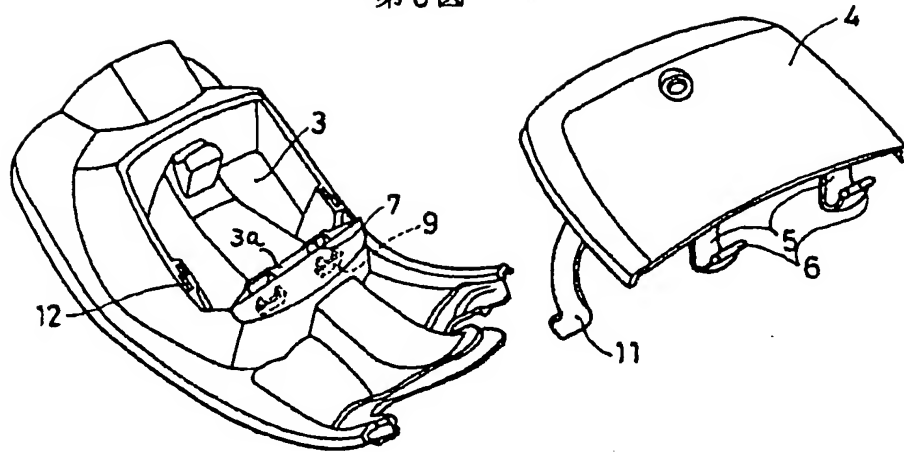
第1図は本案装置を備える自動2輪車の1例の側面図、第2図はその要部の蓋部材を開いた状態の斜視図、第3図はその分解状態斜視図、第4図はその一部の分解斜視図、第5図は要部截断側面図である。

1……車体、2……インナボックスカバー、3……インナボックス、3a……開口縁部、4……蓋部材、5……ヒンジアーム、6……ヒンジピン、7……透孔、8……ピン溝、9……ヒンジ受座部材。

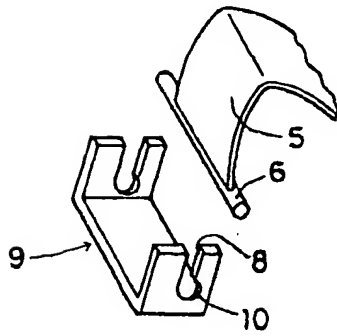
第2図



第 3 図



第 4 図



第 5 図

